

EU Indicators

発表日:2018年9月21日(金)

欧州経済指標コメント:9月ユーロ圏PMI速報

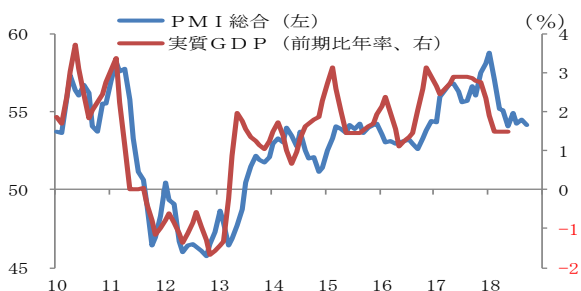
～内需の片肺飛行でどこまで持つか～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部

首席エコノミスト 田中 理 (Tel:03-5221-4527)

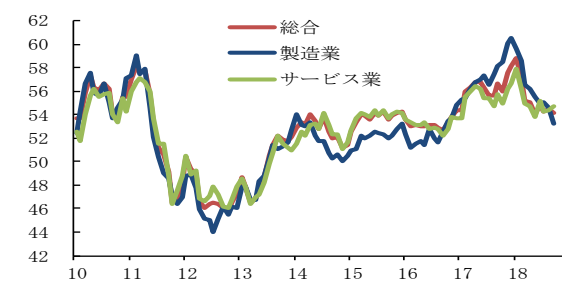
- 9月のユーロ圏のPMI総合指数の速報値は54.2と前月から0.3ポイント低下した。発表元のIHS Markitによれば、今回の計数はユーロ圏の実質GDP成長率が前期比+0.5%ペースで推移していることを示唆。順調な景気拡大と整合的な水準ながら、年明け以降でみれば5月に次いで低い。
- 業況慎重化を牽引したのは製造業。製造業PMIは53.3と前月から1.3ポイント低下し、2016年9月以来の低水準を記録した。指数を構成する5項目は、中間財在庫のモメンタムが加速したのを除けば、生産、受注、雇用、入荷遅延（逆数）が揃って悪化。なかでも受注の鈍化幅が大きく、輸出受注は業況判断の分岐点である50に低下した（2013年6月以来の低水準）。特にドイツの輸出受注は2015年7月以来の50割れとなった。他方、サービス業は全般に堅調で、総合指数の作成に用いる活動指数が54.7と前月から0.3ポイント上昇、高水準を維持している。
- 国別・業種別には、ドイツがユーロ圏全体と同様に、サービス業の改善モメンタムが加速した一方、製造業の改善モメンタムが鈍化し、全体の足を引っ張った。フランスでは製造業・サービス業が揃って低下し、全体計数は2016年12月以来の低水準を記録した。
- 新興国の動揺、貿易戦争の脅威、世界景気のピークアウトが重なり、輸出判断を中心に製造業の業況に一段のブレーキが掛かってきた。自動車生産の落ち込みの伝聞情報もあり、排ガス規制導入前の駆け込み需要の一巡も影響した可能性がある。他方、サービス業は雇用・所得環境の改善に支えられ、堅調を維持している。今のところ製造業の業況慎重化を、サービス業の堅調で和らげているが、こうした傾向が長期化すれば内需にも徐々に下押し圧力が加わることになる。

■ユーロ圏：PMI総合と実質GDP



出所：IHS Markit、欧州統計局

■ユーロ圏のPMI



出所：IHS Markit

■購買担当者指数（PMI、季節調整済み）

		2017				2018									
		4Q	1Q	2Q	3Q	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月
ユーロ圏	総合産出指数	57.2	57.0	54.7	54.3	58.1	58.8	57.1	55.2	55.1	54.1	54.9	54.3	54.5	54.2
	製造業購買担当者指数	59.7	58.2	55.6	54.3	60.6	59.6	58.6	56.6	56.2	55.5	54.9	55.1	54.6	53.3
	サービス業業況指数	56.0	56.4	54.5	54.4	56.6	58.0	56.2	54.9	54.7	53.8	55.2	54.2	54.4	54.7
ドイツ	総合産出指数	57.6	57.2	54.2	55.3	58.9	59.0	57.6	55.1	54.6	53.4	54.8	55.0	55.6	55.3
	製造業購買担当者指数	62.2	60.0	57.0	55.5	63.3	61.1	60.6	58.2	58.1	56.9	55.9	56.9	55.9	53.7
	サービス業業況指数	54.9	55.5	53.2	55.2	55.8	57.3	55.3	53.9	53.0	52.1	54.5	54.1	55.0	56.5
フランス	総合産出指数	59.1	57.7	55.4	54.3	59.6	59.6	57.3	56.3	56.9	54.2	55.0	54.4	54.9	53.6
	製造業購買担当者指数	57.5	56.0	53.6	53.1	58.8	58.4	55.9	53.7	53.8	54.4	52.5	53.3	53.5	52.5
	サービス業業況指数	58.9	57.8	55.9	54.9	59.1	59.2	57.4	56.9	57.4	54.3	55.9	54.9	55.4	54.3

出所：IHS Markit

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。

